

SPF 豚の飼養と生産実績

新利根養豚組合 篠崎 義明

1. 立地環境

茨城県の肉豚出荷頭数は1984年の204万頭をピークにその後は、180～190万頭台で推移している。(表-1)

県内の子豚生産は130万頭弱で子豚自給率は70%程度である。その他は県外導入となっている。

常時飼養頭数は70万頭台を10数年維持している一方飼養戸数では500頭以下規模の農家、特に小規模飼養農家の減少が目立ち500頭以上飼養している農家戸数は増加傾向にある。1990年2月

1日現在の飼養戸数は3,850戸(対前年比84.6%)、飼養頭数は77万8,000頭(対前年比99.2%)、一戸当り飼養頭数は202.1頭(対前年比117.2%)となっている。(表-2)

我が稲敷郡新利根村は土浦市の東方約30kmに位置している。西北は筑波山を望み、南方には本県と千葉県の間境となる利根川に面している。更に東方には霞ヶ浦があり〔水郷の町〕潮来まで30kmと誠に恵まれた環境である。当地の主要産業は戦前よりの米作地帯で早場米の生産に適し、秋に

表-1 肉豚出荷頭数及び枝肉生産量推移

	1984	1985	1986	1987	1988	1989
出荷頭数(千頭)	2.036	1.850	1.951	1.876	1.844	1.865
枝肉生産量(千トン)	135	133	149	150	149	150

表-2 豚の規模別飼育戸数・頭数

		(肥育豚飼養頭数規模)							
		1～29	33～99	100～499	500頭以上	小計	子取り農家	合計	
戸	1984	2,970	1,860	1,390	150	6,370	5,610	11,980	
	1985	1,280	1,350	1,390	245	4,265	3,240	7,505	
	1986	830	910	1,160	287	3,187	1,940	5,127	
	1987	690	820	1,080	350	2,940	1,160	4,100	
頭	1984	50,500	130,900	326,500	163,200	671,100	73,300	744,400	
	1985	26,000	91,400	326,600	263,000	707,000	64,000	771,000	
	1986	17,800	62,900	310,800	334,600	726,100	59,800	785,900	
	1987	12,500	53,700	261,200	421,800	749,200	35,000	784,200	

は黄金の稲穂が正に絨毯を敷き詰めた如く稲敷台地のその景色たるや誠に壮観である。

畜産業は、稲作農家の副業として庭先養豚が盛んであったが近年ではご存じの通りの養豚情勢から減少するばかりで最近では数える程となった。

さて、私の養豚場は一面田園地帯の一角にあり最も近い養豚場とは直線約2kmと離れており SPF 豚を飼育する第一条件は満たされている。環境的にも四季を通じて気候にも恵まれ、関東地区では一日

豚飼養戸数・頭数市町村順位
上位10傑(平成2年2月現在)

(単位:戸)		(単位:頭)	
順位	飼養戸数	順位	飼養頭数
1	茨城町 220	1	旭村 65,840
2	下妻市 180	2	鉾田町 53,320
3	八郷町 180	3	八郷町 45,440
4	結城市 170	4	美野里町 34,330
5	美野里町 160	5	新治村 33,510
6	出島村 160	6	下妻市 32,300
7	つくば市 140	7	結城市 31,500
8	石岡市 130	8	麻生町 25,770
9	下館市 120	9	岩井市 25,020
10	岩間町 120	10	北浦村 24,830
	鉾田町 120		

図-1
SPF 豚の飼養と生産実績

豚地域別飼養頭数
(平成2年2月1日現在)

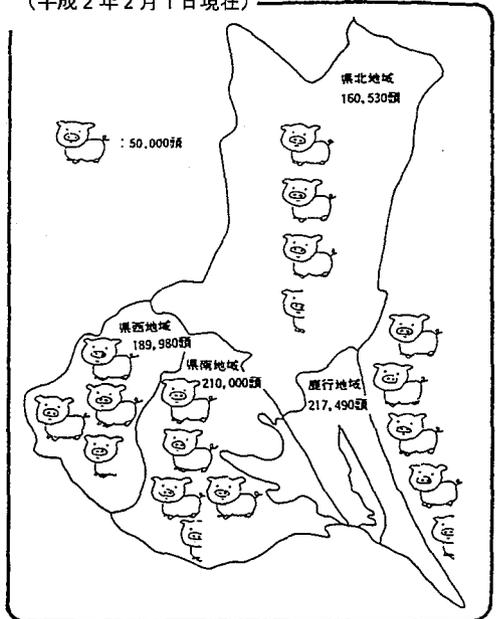


表-3 繁殖成績表

1989/9 ~ 1990/8 ()雄豚													
導入豚頭数	89/9	10	11	12	90/1	2	3	4	5	6	7	8	合計
稼働豚月末頭数	95(8)	94(8)	93(8)	89(8)	87(8)	87(9)	95(9)	93(8)	90(8)	90(8)	93(9)	94(9)	91.7(8.4)
分娩腹数	10	23	30	11	13	17	27	19	11	16	25	20	222
総産子数	119	216	309	125	154	176	307	225	126	192	289	220	2,458
(1腹当り)	11.9	9.4	10.3	11.4	11.9	10.4	11.4	11.8	11.5	12	11.6	11	11
離乳頭数	98	204	276	99	127	166	259	182	114	175	247	185	2,132
(1腹当り)	9.8	8.9	9.2	9	9.8	9.8	9.6	9.5	10.4	10.9	9.9	9.3	9.6

1990/9 ~ 1991/8 ()雄豚													
導入豚頭数	89/9	10	11	12	90/1	2	3	4	5	6	7	8	合計
稼働豚月末頭数	90(8)	90(8)	93(8)	91(8)	87(8)	91(8)	93(8)	95(8)	95(8)	93(8)	93(8)	92(8)	91.9(8)
分娩腹数	12	11	16	27	21	14	12	17	22	23	22	14	211
総産子数	155	126	188	313	242	160	138	201	232	269	254	158	2,436
(1腹当り)	12.9	11.4	11.7	11.5	11.5	11.4	11.5	11.8	10.5	11.7	11.5	11.2	11.5
離乳頭数	124	112	163	265	216	143	124	175	218	236	220	143	2,139
(1腹当り)	10.3	10.2	10.2	9.8	10.3	10.2	10.3	10.3	9.9	10.3	10	10.2	10.1

の最高、最低の温度差が少ない地域であり、養豚には比較的恵まれた地域であると自負している。

2. 当養豚場の経緯

私は、市場買子豚を農家に肥育預託し、肉豚処理後枝肉を肉店に卸す所謂畜産業を30年間続けて来た。子豚導入と預託豚の継続に不安と肉店への供給も心配されてきたので子豚生産は未経験でもあったが思い切って一貫を志した。

昭和63年10月からSPF種豚を100頭導入後満3年が経過したので実績は、表-3の通りである。また、出荷は次のようになっている。

89/9~90/8 2.091頭÷91.7頭=22.8頭/母

90/9~91/8 2.132頭÷91.9頭=23.2頭/母

養豚の生産は、定時定量を重視し回転率を上げて生産性を追求する方法と収益重点の市場相場の高い夏期に合わせた種付け仕込をする方法と考えられる。

私の所では、後者を選び11月から1月に分娩するよう心掛け種付けを試みている。満足度は70~80%である。

3. 防疫管理

(1) 衛生管理

- ・農場周囲は、フェンスで囲い、人、動物の立ち入りを制限している。
- ・搬入門と搬出門は、分離している。
- ・農場に立ち入る車両は、農場入口でチェックし動噴で消毒している。
- ・場内車両通路は最低月一回生石灰を散布している。
- ・農場従業員は、場内用、場外用の衣類・長靴の着替えを励行している。

- ・やむをえず家畜市場等の場所に行った場合は自宅の風呂に入った後当農場に設置しているシャワー室で再度入浴後着替え農場内に入る。
- ・外部からの物品は、消毒庫で消毒後豚舎に持ち込む。
- ・豚舎内部は、豚収容前に毎回水洗、消毒、石灰乳を塗布する。
- ・搬出口からは、肉豚、廃豚、醗酵堆肥及び汚水運搬車専用としている。
- ・その他は、ねずみの駆除を定期的に行っている。

(2) ワクチネーション

種豚：豚コレラ・豚丹毒・日本脳炎・パルボ
肉豚：豚コレラ・豚丹毒

(3) ヘルスチェック

半年に一回ランダム採血の上ヘルスチェックを行っている。

4. 公害対策

- ・臭気対策、ホコリ対策に豚舎内に自動噴霧器を設置している。
- ・汚水搬出(パキューム)を週一回行っている。

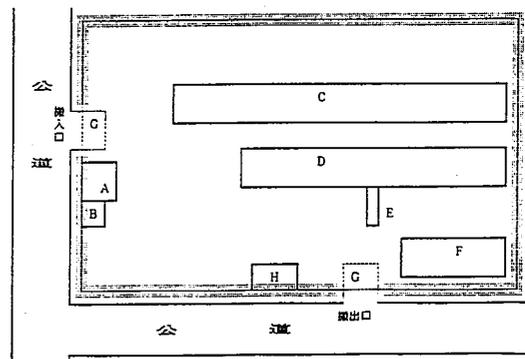


図-2 農場レイアウト

A:管理棟 B:消毒庫 C:繁殖、子豚舎
D:肥育舎 E:出荷台 F:堆肥舎
G:消毒槽 H:物置

5. 労働時間

人員

日曜日	1 人	
月曜日	1.7人	豚移動, 去勢, ワクチン
火曜日	1 人	
水曜日	2 人	豚移動, 汚水搬出
木曜日	1.7人	水洗
金曜日	1 人	消毒
土曜日	2 人	石灰塗布, 汚水搬出
※平常時	朝夕	除糞清掃 各1時間 豚観察 各30分

6. 機械点検

月1回定期の電気, 火器燃料関係等行う。

7. 豚舎構造及び内部設備

- ・サッシ 窓ガラス 引き戸式 オープン豚舎
- ・屋根 20mm ウレタン加工 鋼板葺
- ・分娩舎 離乳子豚舎 ロストン全面スノコ
除糞スクレーパー
- ・休息舎 雄舎 肉豚舎 コンクリート一部ス
ノコ 除糞スクレーパー
- ・自動給餌 給水ニップル式

8. 飼 養

(1) 種豚導入後の管理

- ・飼料は2～3日間をかけて標準給与量にする。
- ・導入4～5日目に駆虫薬を投与。
- ・飼料は, ペレットを使用している。
- ・3日間は, 抗生物質を投与する。

(2) 種豚の給餌, 給水

- ・休息豚また種雄豚の給餌は, 自動ライン制限
給餌朝1回/日。

- ・分娩舎内種豚の給餌は, 朝夕各1回。

- ・給水は自動給水。

(3) 哺乳子豚

- ・分娩子豚は, 5頭～20頭まで出生頭数の差があるので里子として平均化の調整をしている。
- ・1腹当り哺乳頭数を11頭見当にしている。
- ・早期餌付飼料(生後4～5日齢)をぬるま湯に混ぜ哺乳子豚に与える。
- ・保温は, 保温箱を使用しガスブルーダーを上
下して温度調整する。
- ・離乳日齢は, 24日を基準としているが時と場
合により変化する。離乳体重6kgが目安。

(4) 離乳子豚

- ・自動給餌器に朝給与する1日1回は空にする。
- ・1豚房12頭収容が基準であるが24頭になる
事がある。
- ・保温は, 哺乳子豚舎と同じ。
- ・肉豚舎への移動は35kg/75日を目安とするが
離乳豚房の都合で35kg以前になっている。

(5) 肉 豚

- ・自動化ライン給餌。
- ・生体重60～70kgに達すると肥育飼料に切り
替える。
- ・出荷は, 生体重110kgを目安とする。

9. 今後の課題

- ・分娩子豚の未熟児を減らし生産性を向上させる。
- ・母豚の分娩回転率を上げ24頭/年出荷目標と
する。
- ・離乳豚舎を増築し密飼いを改める。
- ・肉豚の厚脂傾向を改善する。
- ・規模拡大と機械化・省力化に挑む。
- ・高賃金を支払い生産技術者の定着に努める。